



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2008

4月30日号

108
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

地域に貢献出来る生涯教育を



会長 片倉 俊彦

暖かな日差しと春爛漫の花の美しさとは裏腹に世の中には暗い話題が多い。特に医療に携わる私たちの心に響くのは後期高齢者医療保険の話題である。負担の増額や年金天引きなどお保険料の話は盛り上がりを見せるが、この改革による医療の質の話があまり話題とならないのは残念である。

そもそも、診療報酬は初再診料の他に、診療行為に応じて検査、画像診断、リハビリ、処置料などがそれぞれ算定される。また、高齢者の場合は複数診療科受診による、多種類の薬服用や認知症など時間を要する診療なども多く、これらの療養を管理することを評価する「特定疾患療養管理料」が設けられている。今回の改正では特に75歳以上の老人等のみを対象とした「後期高齢者診療料」が新設され、検査、画像診断、処置料をはじめ「特定疾患療養管理料」も含めた、包括料金として1ヶ月6,000円とした。更に、「主病ルール」で、一人の患者は、一人の主治医のもとで、一つの「主病の診療」を1ヶ月間にわたり受けることとしたため、今まで診療所と200床未満の病院で、それぞれに算定することができた「特定疾患療養管理料」が「自院、他院を問わず」同一月に算定できないこととなった。このような高齢者の特性を無視した「主病ルール」と「低額の包括医療費」により、CTやMRIなどの画像診断や検査は病状の急性増悪時以外は別途診療報酬の対象とならない。これでも医療の質が低下しないとするのは、検査や画像診断も含めて一括していくらという値段の決めかたによるものであり、医療機関への責任転嫁に他ならない。

医療機関への責任転嫁といえ、医療従事者の生涯教育や専門化教育も忙しい。多くは診療報酬の施設基準に盛り込まれるが、その先を見据えた日放技の生涯教育プログラムは理想に燃える青年の如く純粋で急峻なものとなっている。その結果、5年後には大学卒でない70%の放射線技師会員は学術大会座長就任などの活動の場への道を完全に絶たれるようである。元来、日放技は学歴よりも実力と患者貢献を旨とした集団である。時代の変化といってしまうとそれまでであるが、ここで取り残される7割の技師が地域医療の真の担い手である。福島県放射線技師会は全ての技師の資質向上により、地域医療に貢献することを目的とする団体であることを改めて発露し、医療現場の状況にあった生涯教育を目指したい。

平成19年度第3回理事会議事録

1. 日 時 平成20年3月7日(金) PM2:00～
2. 場 所 福島県立医科大学付属病院放射線部
カンファランス室
3. 出席者 片倉会長、鈴木、斎藤副会長、斉藤、今野、森口、八巻、長川、古川、嶋田、山田、白川、遊佐、佐藤、富塚、新里、馬場、伊藤事務局長、村上議長 鈴木副会長 書記 古川(浜通り支部)
4. 報 告
 - 1) 総会準備
県南支部より総会の準備状況が報告された
期 日 平成20年5月17日～18日
会 場 清稜山倶楽部 磐梯熱海温泉
特別公演 私たちの知らない福島県(福島テレビ)
 - 2) 会務報告
会長より平成19年度事業経過報告及び平成20年度の事業計画案が示された。
村上理事より会計報告があり、今年度から支部交付金の透明化を図る事とした。
5. 議 事
 - 1) 会員カードの作成について
県独自の会員カードを作り、全員に配布する事にした、1枚の単価は152円。県(支部)主催の研修会等で出欠やポイントの管理に活用したい。
各支部にカードリーダーを配布して利用してもらうことも検討している。
ポイントの合算や管理はどこで担当するか、生涯教育委員会、ネットワーク委員会、事務局で相談して決める。
 - 2) 会費について
日本放射線技師会の会費の請求が遅れているが、3月7日には送付するとのこと。1月末から2月末くらいに納入した方に再請求が来るかもしれないので、事務局から連絡する。
県は従来どおり、9月30日までの納入期限とする。
 - 3) ホームページについて
ホームページ上に会員からの質問に答えるため、問い合わせのコーナーを作る。
(遊佐) 県技師会ニュースを一般の人にも閲覧できるような形で確実に載せられないか
(八巻) 編集委員では下書きの段階で提出するので、最終調整は印刷会社で行い発行している
(会長) 印刷会社からPDFファイル等で提供してもらえないか
確認することになった
(鈴木) ホームページに、以前は載っていた学術大会の抄録を載せられないか
以前の内容を確認することになった
 - 4) 学術大会の決算報告
賛助会員からの広告料は17社で44万円であった。

今回発行する、会員証もここから支出した。

- 5) 3Cの会による特別講演会について(会長)
地方技師会主催の講演会であり、今後は日放技とは別に活動する、その最初の講演会。今後も独自性を出せるよう活動を続け行く。福島県からもシンポジストの要請があり、協議の結果馬場理事にお願いした。これからも開催機会があり、企画があれば提案していただきたい。
- 6) 日本放射線技師会理事会報告(片倉会長)
ADセミナーを修了し資格者になっても、アドバンスの申請をしていない会員が多いので、自動的に発行することとした。AD受講は次年度からインターネット講習にする。今後、会費に関しては日放技本部と直接やりとりすることになる。
- 7) その他
(富塚) 調査委員会から20年度に行うアンケート調査の内容説明
(八巻) 最近研究会等が数多く開催されているが、県技ニュースの記事にならないことも多い、編集委員だけではカバーしきれないので協力をお願いしたいネットワーク委員会を通じて情報を集約し、関係部署に協力を要請する
(鈴木) 会費未納者へは各支部で責任を持って働きかけをすること
(村上) 名誉会員には議決権はないが、70歳以上で会費免除になっている会員には議決権が残ることになる、矛盾しないか
(会長) 会費免除の規定が定款にないので問題が生じる、12月の公益法人化に向け定款改正があるのでそこに盛り込むことにする、名誉会員も70歳以上の会員も議決権はあるという方向にしたい
(馬場) 支部の会計報告、予算の取り扱いは
(会長、村上) 支部助成金の分だけを項目別に割り振って県に報告してほしい
支部独自の会計報告は別にあってもよい、助成金は領収書を添付し余剰が出ぬように調整する
(八巻) 支部の会計報告はいつまで出せばよいか
(村上) 3月14日で締めて決算する、財務のメーリングリストに金額を流す
県への会計報告は3月末まで報告すること
(佐藤) 次年度の総会は県南支部の担当だが、県から準備金等の用意はないか
(会長) 総会や理事会の費用は県で負担し、宿泊や懇親会にかかる費用は担当支部で負担する、会費等の設定は支部の判断で決めることになる
県からの負担金も当日の支払いが原則
(今野) 県総会の勤続20年表彰は代理で受け取る事が多いが、本人が出席するように支部長から促してほしい
・ 次回の開催日は4月11日(金)とする

日本放射線技師会教育制度の今後の動向

過日、日本放射線技師会教育センター東京サテライトで、新時代に対応するための継続教育説明会が開催され、今後の方針が示された。

平成20年度より従来行われてきた生涯学習システムが見直されることになった。大きな変化としては、今後の生涯教育はJART3月号で会告されたように、新教育委員制度で公募し講習を受け認定要項を満たした教育委員が、日本放射線技師会の委託を受け執行部として活動することである。従来から行われてきた生涯教育事業は、全て新教育委員が日本放射線技師会の事業として行うようになるとともに、各都道府県技師会企画実施による研修イベントはカウント付与の対象にはならなくなる。今後は新教育委員が県技師会の意向を受け企画したイベント（日本放射線技師会の事業となる）のみが、カウント付与の対象になる。例えば、福島県に教育委員が存在しなければ、日本放射線技師会から派遣された他県の教育委員がこの任務に当たることになる。

ADセミナーは講習内容が見直されると共に、在宅学習が開始される。平成16年度から開始され技師各制度も一部見直されるが、シニア放射線技師の申請カウントも経過措置期間も平成19年度で終わり、平成20年度以降は1000カウント以上となる。取得条件を満たしていながら未申請者がいるとのことで、直接本人に連絡が来ていると思うが、申請期間も平成20年4月30日まで延長された。アドバンスド資格についても、取得要件を満たしていながら未申請が福島県には30名以上いるとのことであるが、必要ないと期限までに申し出ない限り自動的に発給されることになった。飛び級にてシニア技師格を取得した場合の「救急医療学」と「看護学」の期限付きの単位修得は撤廃され、修得の必要はなくなった。

平成20年度には、技師格のカウント諸表の見直し、認定資格更新内容の再検討などが行われる。診断支援技能検定が新規事業として加わるなど、時代に則した対応をしていくとのことである。（斎藤）

第2回「いわき市における地域医療を考える」シンポジウム～医師不足とその周辺問題～開催

平成20年2月17日(日)午後2時よりいわき市総合保健福祉センター多目的ホールにて上記のシンポジウムが開催されました。おりしも2月上旬、福島県の救急搬送においていわき市が俗に言う「たらい回し」が一番多いとニュースになったばかりでした。実際に人口10万人当たりの勤務医数は同規模の郡山市に比べると74人少ないというニュースもあり、早期の勤務医確保が急がれると思います。（鈴木）



浜通支部

いわき地区画像研究会開催される

平成20年3月14日(金)いわき市立保健センター多目的ホールにおいて、今年度3回目のいわき地区画像研究会が開催されました。今回は「デジタルマンモグラフィーの現状」という演題で講師に鳥津製作所 医療機器マーケティング部 南部由紀子先生、「乳がんを見つけるコツ」という演題で渡辺クリニック 乳腺外科 渡辺進先生をお招きして行われました。

最初のテーマであるデジタルマンモグラフィーは主にFPDの話がメインで画素サイズは85 μ mとCRほど高精細ではないが、ダイナミックレンジが広く、よりアナログに近い写真に仕上げることができるとの説明があった。また、一度挟んだ乳房を上下独立したシートで装置側に引き込むことのできる「MaxVision」の説明もあった。会場からは直接変換のFPDは環境（温度や湿度）に影響されやすいので何か良い対処法はないかとの話があったが、南部先生からは今後の課題であるとの説明があった。

続いて渡辺先生の講演は乳がん死亡率数が右肩上がりに伸びているという話から始まり、2015年までには女性が罹るがんの中で乳がんが一番になるとの予測を示したデータの説明があった。次に乳がんになる「10のリスク」の説明を経て、形態的な変化の特徴、乳頭から分泌物の特徴、X線写真上の特徴、乳管内視鏡写真や乳管造影X線写真、治療に必要な医療費を含め細部まで丁寧でわかり易い説明があった。会場から左右同時に罹る乳がんはあるのかとの質問があり、手術1年前から1年後までに発見されたがんは「同時」ということばを使って表現するとの説明があった。

なお、渡辺先生は4月5日に行われるいわき市医師会主催市民公開講座で講演が予定されているので参加するのも良い勉強の場になると思う。（鈴木）

県南支部

第3回 県南支部理事会開催

去る平成20年3月14日、第3回県南支部理事会がビッグアイ郡山7階にて開催されました。

議題として 1) 県技師会会務報告 2) 県南支部総会 3) 第61回県技師会総会の件に関して話し合いが持たれました。県南支部総会に関しては、4月23日(水) PM6:30から開催の予定です。平成19年度支部事業報告・決算報告がなされ、平成20年度の事業計画案・予算案の審議がおこなわれます。開催日時が平日の勤務後となっておりますので、都合を付けて多数参加されますようお願いいたします。また支部総会開催に先立ちまして、教育講演

として、放射線管理士部会の菅野修一氏から「診療放射線技師が行なう緊急被ばく医療活動とは」の演題名で話を頂ける予定になっております。原発立県の福島県として、10年程前より原発事故に対する対策・現地訓練を行なっていますが、それに県からの要請により放射線被ばく対策の面で放射線管理士部会の放射線技師が関わっております。放射線管理士試験は日本放射線技師会で行なわれており、テキストとCD-ROMによる在宅学習後、100問の試験を受験する事になるのですが、今年度よりWeb講習になるようです。詳しくは技師会雑誌をご覧ください。管理士部会では会員を募集しておりますので、資格試験を受験してみたい方はいかがでしょうか。

県技師会総会は今回県南支部が担当になっており、5月17・18日の両日磐梯熱海の清陵山倶楽部にて行なう予定でおります。県技師会行事の一大イベントですので、役割分担等で各支部にボランティアを依頼するようになると思いますが、よろしく願いいたします。また恒例のサマーセミナーは7月26日に開催予定ですので、県南支部会員の方は早めに予定に入れていただければと思います。なお両行事とも詳細に関しては、決定しだい会員にお知らせいたします。(幕田)

会津支部

第27回 会津MRI研究会の開催

平成20年3月27日(木)、竹田総合病院MRI室におきまして、第27回会津MRI研究会が開催されました。まず最初の演題として、竹田総合病院より「EOB-プリモビストの使用経験」と題して発表がありました。ご存知の方も多いと思いますが、EOBプリモビストはまだ販売されて間もないですが、すでに肝臓MRI用造影剤として実績を上げている薬剤です。従来品と比較した画像を見ても、微細な病変を鮮明に画像化することができるすばらしい造影剤と思われます。

今回の会津MRI研究会では竹田総合病院のMRI「GE Signa HD-X 1.5T」の見学もあり、もしかしたらこの見学のほうがメインだったかもしれません。Signa HD-Xは、Signaシリーズの中でも最上位機種と位置づけられたMRIで、特筆すべき点が大きく2つあります。ひとつは乳房MRI撮像において、両側が同時に撮像可能になった点です。専用コイルを使用して、スラブ状に撮ることが出来る、そのデータを元にMPRの様に表示することも出来るようです。もう1つはいわゆる「MRI透視」とも言うべきもので、現在でも心臓シネ撮像などで使用されていますが、従来のものとは違って、より鮮明になっており、また撮像中にリアルタイムでリファレンスを切ることが出来る優れたシステムになっていました。

MRIにしるCTにしる、急激に進歩していく中で、われわれ技師もそれに遅れること無いように、検査する必要性を感じた研究会でした。(森谷)

県北支部

「県北支部学術講演会」開催される

平成20年3月1日、福島テルサにおいて「県北支部学術講演会」が開催された。講演会のテーマは「腹部疾患について～全てのモダリティからみた疾患」と題し、福島県立医大放射線科の宮崎真先生にご講演をいただいた。MRI、XP(単純写真)、CTに関して各種画像モダリティの特徴を、様々な症例を通しわかりやすく解説していただいた。特にCTのアーチファクトについての話では「CTは原理上虚像を含む可能性がある」との注意点や、CT濃度レベル設定や造影タイミングにおける病変の見え方の違い、又MRIでのDWIの留意点など、普段ではあまり聞けない放射線科医としての読影法など非常に多角的なお話であった。約1時間半の講演であったが時間を忘れるほどの充実した内容で「今後も支部の勉強会を定例的に開催してもらいたい」との多くの参加者の要望であった。



第6回 MRI技術研究会県北地区勉強会開催される

平成20年2月20日、大原総合病院において「第6回MRI技術研究会県北地区勉会」が開催された。今回は日頃から関心があるテーマについて2名の技師が発表を行った。はじめに北福島医療センターの八巻智也さんが「最近の検査事情～検査を取巻く環境の変化から撮像トピックスまで」と題し、3T装置の特徴である「磁場酔いや検査時間の制限」について、また装置デザインや四肢専用などにみられる「患者環境に優しいメーカーの取組み」等について、様々な角度からホットな話題を提供した。次に「頸部MRIの現状～方法論やポジショニング・補助具の検討～」と題し、大原総合病院の斎藤久美さんより自作の補償具の作成や日頃の工夫点などとても興味深い発表があった。後半には下肢血管撮像についてのテーマで、各施設から持ちよったフィルムによるディスカッションが行われた。独自の工夫や撮像方法などの情報交換や意見交換が盛んに行われ、参加施設の多くが日頃から技術向上や研鑽に励んでいるようであった。(池田)

編集後記

「ありがとう」は奇跡の言葉である。口に出せば元気が出る。耳に入れば勇気がわく。感謝の心は自分自身を豊かにする。(世界桂冠詩人の言葉)…身近な家族や自身の職場だからこそ、何かをしてもらって当たり前と思うのではなく、感謝を声に出す。態度に出す。そうした積み重ねが、友情を生み信頼を築く力となるという。…社会や親子など互いに傷つけ合う事件が多く伝えられる昨今。だからこそ「ありがとう」の言葉の価値を心に刻みたい。(池田)